

## 第2学年 算数科学習指導案

平成28年7月21日

### 1 単元名 買えますか？ 買えませんか？

### 2 単元について

本単元は、学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取り扱い」2－(1)「数量や図形についての豊かな感覚を育てるとともに、およその大きさや形をとらえ、それらに基づいて適切に判断したり、能率的な処理の仕方を考え出したりすることができるようにすること」に基づくものである。第1学年では、50円玉2枚で48円と47円のものを買えるかを計算で正確な数値を求めるのではなく、十の位に目をつけて、その大小で判断するなど簡単な見積もりで判断する学習に取り組んだ。そして、その理由が言えることで、それらの学習の定着や表現する能力の向上を図ってきている。ここでは10や100を1つの単位として、数を相対的な大きさから判断できることを根拠にして説明できることをねらっている。具体的には、「単価が100円を超えないものは100円で買える。逆に、100円を超えるものは、100円では買うことができない。」ことをもとに考えさせ、正確な数値を求めるのではなく、500円は100円が5個、その100円でパンが1個買えるかどうかを判断し、見積もり、それを児童自身の言葉で説明させることが大切であると考えた。

本学級の児童は、算数の学習に意欲的に取り組む児童が多い。特に具体物を操作することで、考えたり説明したりする活動への意欲が高くなる。その反面、書くことや自分の考えを発表することに苦手意識がある児童も少なくはない。そのため自分の考えに自信が持てず、考えたことを説明することに消極的になってしまう児童もいる。これまでに数え棒や数図ブロック、その他の具体物を操作することやテープ図を描くなどを通して自分の考えを持ち、それらを使いながら説明する活動に取り組んできた。抽出児であるA児は、学習への意欲はあるが、学習したことを理解し、自信を持ってノートに自分の考えを書いたり、説明したりすることには抵抗がある。しかし、学習内容が理解できて自信が持てると、「できた!」「分かった!」などの前向きな発言をすることもできる。

指導にあたっては、位の数字の大小関係で全体の大小関係を判断することができるかという児童のレディネスを調べてから本時の学習に入りたい。そして、導入で問題場面をしっかりと把握させ、ペアでの活動を取り入れるとともに、具体物の活用を図るようにする。具体的には、授業をユニバーサルデザイン化する3つの視点に基づいて、次のような指導の工夫や手立てを考えた。

焦点化	視覚化	共有化
<ul style="list-style-type: none"><li>・買い物などの生活経験をもとに、見積もりのよさに気づかせる。</li><li>・100円で1つ買えるか買えないかをもとに判断できるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・導入で買い物場面の絵を示しながら問題を把握させる。</li><li>・自分の考えを図や絵に表し、考えを見える化する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・買えるか買えないかをペアで話し合うことで、考え方の見通しを持たせる。</li><li>・100円玉の模型や長さを表したテープなどの具体物を使って説明する。</li></ul>

説明の仕方で困っている児童には、教科書の吹き出しの絵を参考にさせたり、話型を参考にさせたりして、説明できるように支援したい。また、何人か説明を発表した後に、意図的指名をすることで自分の言葉で表現しながら説明できるように促していきたい。

### 3 単元目標

1つの品物が100円で買えるか買えないかの判断をもとにして、複数の品物を合わせたときの値段を見積もることができる。

### 4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
買えるか買えないかの判断をする問題場面に関心を持ち、進んで取り組もうとしている。	98や105を100とみて、買えるか買えないかを判断し、その理由を説明している。	98や105を100とみて、買えるか買えないかを判断している。	98や105を100とみて、これを活用し、判断する方法を理解している。

### 5 指導と評価の計画（全1時間）

	学習活動	評価の観点と方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>500円で98円のパンがいくつ買えるかを見積もる。</li> <li>300円で105円のを3つ買うことができるかを判断する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100円と対応させながら、買えるか買えないかを判断し、その理由を説明したり、ノートに書いたりしている。</li> </ul> <b>【数学的な考え方】</b> （発言・ノート）

### 6 本時について

#### (1) 本時のねらい

1つの品物が100円で買えるか買えないかを判断することを通して、何百円で複数の品物が買えるか買えないか見積もりができることに気づき、見積もりの考え方を説明することができる。

#### (2) 準備物

場面絵、問題文、100円玉の模型、パンの絵、数の大小関係を長さで表したテープ図

#### (3) 本時の学習展開

	学習活動	指導の工夫と評価
	○主な発問 ・予想される児童の反応	・その他の工夫 ◇評価【観点】 ※手立て
つかむ	1 問題場面を把握し、本時の課題を捉える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             ㊦ はるなさんは、500円もっています。              500円で98円のパンを5つ買うことができますか。           </div>	<b>視</b> 教師が問題場面を劇化したり場面絵を提示したりして、課題に興味を持たせる。 ・生活経験と結び付けながら、計算で代金の合計を求める不自然さに気付かせ、計算せずに考えることをおさえる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;">             代金をけい算せずに、買いものをしよう           </div>	
むかう	2 自分の考えをノートにまとめる。 ○買えるか買えないか、自分の考えを言葉や絵や図を使ってノートに書きましょう。 〈言葉〉 ・100円で1つは買えるから、500円だと5つ買える。	<b>焦・共</b> ペアで、買えるか買えないかの予想を話し合わせ、理由も考えさせる。立って話し合わせ、終わったペアは座らせる。 ・買えるを○、買えないを×とし、言葉や絵、図など用いて自分の考えの理由をノートに書かせる。

ふかめる

〈絵〉

・ 

100
-----

100
-----

100
-----

100
-----

100
-----

98
----

98
----

98
----

98
----

98
----

〈図〉

・ 

100 円
-------

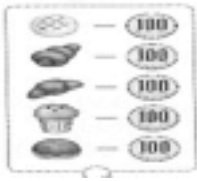
  

98 円
------

3 考えを発表し合う。

○自分の考えを発表しましょう。

〈100 円玉の模型〉



〈数の大小関係を長さで表したテープ〉

100 円	100 円	100 円	100 円	100 円
-------	-------	-------	-------	-------

98 円	98 円	98 円	98 円	98 円
------	------	------	------	------

③ 100 円で 1 つのものが買えるか買えないかで考える。

4 適用題を解く。

㉞ サンドイッチ、クッキー、ジュースはどれも 105 円です。  
 300 円でサンドイッチ、クッキー、ジュースを 1 つずつ買うことができますか。

○買えるか買えないか、自分の考えを言葉や絵や図を使ってノートに書きましょう。

〈言葉〉

・ 100 円で 1 つは買えないから、300 円だと 1 つずつ買えない。

〈絵〉

・ 

100
-----

100
-----

100
-----

105
-----

105
-----

105
-----

〈数の大小関係を長さで表したテープ〉

100 円	100 円	100 円
-------	-------	-------

105 円	105 円	105 円
-------	-------	-------

5 本時の学習をふり返る。

まとめる

・ 机間指導をしながら 100 円と 98 円を比べている考えをアナウンスする。

共いくつかの考え方をボードに書かせてから発表させる。

・ ボードには大切な部分のみ書くように指示を出す。そして、教師が児童の発表を聞きながら、100 円と 98 円を比べている発言を板書に付け加えていく。

共 100 円玉の模型や大小関係を長さで表したテープを提示し、補足をさせたり説明をさせたりすることで理解を深めさせる。

焦計算するよりも、100 円で 1 つの品物を買えるか買えないかを判断することの方が簡単だというよさに気づかせる。また、その考え方を「見積もる」ということを伝える。

共「100 円で 1 つのものが買えるか買えないかで考える。」と簡単な言葉でノートにまとめさせる。

共まとめた考え方を使って問題に取り組ませる。

◇ 1 つの品物が 100 円で買えるか買えないかをもとに 3 つの品物が 300 円で買えるかを判断し、言葉や絵、図を用いて説明したり、ノートに書いたりしている。

【数学的な考え方】(発言・ノート)

※「1 つが 100 円で  ので、3 つ分の 300 円で 3 つは  。」というヒントカードを与え、四角の中に「買える」「買えない」の言葉を入れさせてから、なぜそう判断したのか、理由をノートに書かせる。

・ 本時のめあてを確認し、達成できたかどうかを◎○△の記号でふり返らせ、その理由を言葉で書かせる。

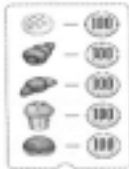
7 板書計画

④ 代金をけい算せずに  
買い物をしよう。

⑤ はるなさんは、500 円もっています。  
500 円で 98 円のパンを 5 つ  
買うことができますか。

見つもり

⑥ 100 円で 1 つのものが買えるか買えないかで考える。



どれも 100 円で買える。

⑦ サンドイッチ、クッキー、ジュースはどれも 105 円です。  
300 円でサンドイッチ、クッキー、ジュースを 1 つずつ買うことができますか。

考え(絵)

考え(絵)

考え(絵)

考え(図)

100 円	100 円	100 円	100 円	100 円
-------	-------	-------	-------	-------

98 円	98 円	98 円	98 円	98 円
------	------	------	------	------

どれも 100 円より 2 円ずつやすい。

1 つが 100 円で  ので、3 つ分の 300 円で 3 つは  。